

こころ



THCU Chronicle *Heart* No.18 Summer 2014

第18号



平成26年度 東京医療保健大学・大学院入学式 (26. 4. 2(水))



新入生合宿研修におけるグループ発表
(26. 4. 30(水) - 5. 1(木))



第48回関東大学女子バスケットボール選手権大会で4位に！
(26. 5. 18(日))

開学10年目の節目を迎え、これからも
教育内容を充実していきます。
大学・大学院合わせて収容定員
2,063名となりました。

CONTENTS 目次

- 2 学位記授与式・修了式・入学式
- 3 早期入学確定者に対する入学前授業体験会の企画
及びその実際 他
医療保健学部 看護学科
- 4 研究室紹介：渡部容子教授 研究室
医療保健学部 医療栄養学科
- 5 平成26年度キャリア教育Ⅰ 学科別研修 他
医療保健学部 医療情報学科
- 6 第1回学生生活実態調査の概要と結果について 他
東が丘・立川看護学部 看護学科
- 7 修士課程 滅菌供給管理学領域の設置について
大学院 医療保健学研究所
- 8 一般社団法人日本私立看護系大学協会会長表彰を
受けて 他
大学院 看護学研究所
- 9 平成26年度入学者選抜状況
- 10 平成25年度4年次生学科別進路状況
- 11 海外研修
- 12 Topics

学位記授与式及び修了式並びに 平成26年度入学式を実施

平成26年3月8日(土)に学位記授与式及び修了式、4月2日(水)に入学式を挙行了しました。

学位記授与式及び修了式は、練馬区立練馬文化センターにおいて、卒業生及び修了生456名が参加し、式典終了後には、椿山荘において、「卒業を祝う会」が実施されました。また、入学式は、五反田のゆうほうとホールにおいて挙行了しました。

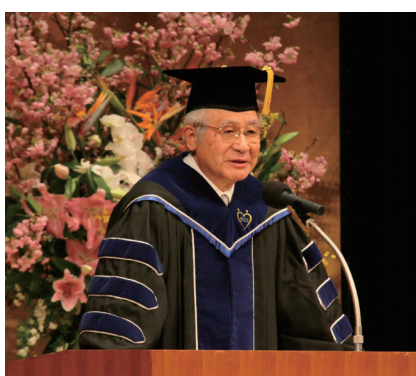
入学式では、木村哲学長の式辞、田村哲夫理事長の告示に引き続き、御来賓祝辞としてNTT東日本関東病院 落合慈之院長、独立行政法人国立病院機構 桐野高明理事長、品川区 濱野健区長及び目黒区 青木英二区長から新入学生に激励の言葉をいただきました。

この後、入学生を代表して、大学院看護学研究科修士課程の伊藤成美さん、医療保健学部の上村美桜さんがそれぞれ挨拶を行うとともに、在学生を代表して学友会会長の吉川恭平さんが歓迎の言葉を述べました。

式典は、在学生コーラスとともに校歌斉唱の後、閉会となりました。その後、東京大学医学部・大学院医学系研究科教授であり、本学客員教授である山本則子様から「これからの医療を担う皆さんへ」と題する講話が行われるとともに、松田真一後援会会長から後援会の説明があり、終了しました。



木村 哲 学長



田村 哲夫 理事長



独立行政法人国立病院機構 桐野 高明 理事長



NTT東日本関東病院 落合 慈之 院長



品川区 濱野 健 区長



目黒区 青木 英二 区長

東京医療保健大学・大学院入学者数

●学部

医 療 保 健 学 部	看護学科	120名
	医療栄養学科	106名
	医療情報学科	91名
東が丘・立川看護学部	看護学科	231名
計		548名

●大学院

医療保健学研究科	博士課程	2名
	修士課程	18名
看護学研究科	博士課程	4名
	修士課程	32名

●助産学専攻科

助産学専攻科		21名
--------	--	-----

早期入学確定者に対する入学前授業体験会の企画及びその実際

平成22年度より医療保健学部看護学科では、AO方式や公募制推薦入学試験等により、早期に入学が確定した高校生に対して、大学実施の入学前教育の開始時期より早い11月から、独自の入学前教育に取り組んでいる。その一つである授業体験会は、入学予定者が大学の授業をイメージし、入学予定者の学習習慣の継続を動機付けることを目的にしたものである。内容は、授業の受講体験、在学生からの体験談、在学生との交流である。平成25年度は12月23日(月・祝)10:30～14:00にて開催、33名の高校生が参加した。

授業の受講体験そのものは、「体の仕組みと働きⅡ」の1コマのうち40分程度である。参加者にとって、板書のない授業でノートを取る経験は少なく、体験前にノートの取り方のミニレクチャー、体験後は、受講体験に対するレポート作成と質疑応答の時間を設けている。今回レポートされた内容を分析すると、参加者は今できる学習をしっかり行う必要性を理解していた。さらに、ユーモアを交えた授業により大学の学習に期待感が湧く一方、授業のスピードについていくこと、重要なポイントを判断すること、聞きながらノートを取ることの難しさを実感したことがわかる。このような率直な感想は、教員が学生に何を学んで欲しいか、明示する必要性を示唆している。

在学生からの体験談は、早期に入学が確定した先輩から、確定から入学までの間の過ごし方について聞く機会である。早期の入学確定者は、それまで培った学習習慣を継続し難いと言われている。今回話してくれた2年次生は、学習習慣が途切れないように語学学習に取り組んだことで、大学生活に早く馴染めたと語り、学習習慣を継続する大切さを伝えた。参加者がこの助言を活かし、学習習慣を保つことを期待している。もちろん、勉強以外の今しかできないこ

とも取り組み、残りの高校生活を充実したものにして欲しい。

体験談後の在学生との交流の機会では、緊張から一転、和やかな雰囲気になり、大学生活に関する様々な質問が飛び交う場となった。入学予定者間の交流にもなり、4月から共に学ぶ先輩・仲間を身近に感じ、安心感が得られたようだ。参加者間では盛んにメールアドレスが交換され、4月からの学習環境が準備され始めたようである。

本企画が早期入学確定者の学習習慣の継続に有効であるかは未だ明らかではない。他の独自企画と共に評価する予定である。

医療保健学部看護学科 講師 ^{はやし せつこ} 林 世津子



入学前教育（授業体験会）の様子

主体的学びを促す急性期看護実習前OSCEの取り組み

急性期看護実習は3年次生後期から4年次生前期に開講される科目である。

主な目的は、侵襲に対する生体反応を理解し、合併症を回避しながら健康生活への回復を促進するためのケアを提供できることである。学生が学習目標を到達するためには、患者と看護師の置かれている状況をリアルに再現し、多様な状況においても安全な看護技術や情報をアセスメントし意思決定する力が必要である。同時に体験を通して自己の課題を発見し、次に向けて準備性を高めチャレンジしていくような主体的に学ぶ力が求められる。本科目では、看護の基礎を学ぶ学生が既習の知識・技術・態度を統合し、臨床状況と関連させながら実習前に自己の課題を整理し、課題解決にむけることを目的として実習前OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）を導入している。今回はその取り組みを紹介したい。

まず主体的な学習を促すために学生へ3日前にブリーフィングを行う。学生はOSCEの状況設定シナリオに沿って、必要な情報は何か、必要な技術は何か、患者への対応はどうするのかなどについて自己学習をすすめる。OSCE当日は3つのステーションを準備し、当日の患者情報と学生への課題（ステーション課題）を提示する。3つのステーションごとではそれぞれ異なる患者情報と患者の反応を準備する。実施時には教員は評価表にそって客観的評価を行う。

実施後は個別ディブリーフィングを行い自己の課題を明らかにして翌日からの実習に活かす。

この演習により学生は「患者の反応によって右往左往した。わかっているのとできるのは違う」「何度も同じ動作や無駄な動作をして自分の行動が患者の苦痛になることに気づいた」などの学びがある。

現在は、対象者に応じた難易度の高いシナリオと課題の開発や評価項目の精選など行いながら、さらに学生の能力をより引き出せるような教育方法を検討している。

医療保健学部看護学科 准教授 ^{おざわ ともこ} 小澤 知子



OSCEの流れと実際の様子

研究室紹介：渡部容子教授 研究室



医療栄養学科に平成25年4月に着任致しました。本学では、教員免許状の取得も可能であり、医療栄養学科が栄養教諭の、看護学科が養護教諭のそれぞれ課程認定を文部科学省から受けています。その教職課程で、教職に関する科目「教育制度」「教育原理」「教職への道」「教職実践演習（栄養教諭）」などを教えています。また、東が丘・立川看護学部では「教育学」が2年次必修科目であり、そちらの担当でもあります。医療情報学科では、選択科目の「家族社会学」「ジェンダー論」を教えています。研究室は世田谷キャンパスですが、五反田キャンパス、国立病院機構キャンパスを行き来する日々です。

私が担当する授業を2つご紹介しましょう。一つは、4年次の「教職実践演習（栄養教諭）」です。「教職実践演習」は、直近の教育職員免許法改正時に、すべての教員免許状を取得する際に必須科目として設置され、4年制大学では昨年度が開講初年度となりました。教員免許状を取得する学生の意欲・実践力の向上を目指すため、少人数制、教育実習実施後から卒業までの間の開講、「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の担当教員の協働、学校現場や教育委員会の協力を得ること等々、認可には色々な条件が課された科目でもありました。

本学の「教職実践演習（栄養教諭）」は、開講直前の主担当者交代となったわけですが、管理栄養士資格を持つ先生方のご協力のもと、それぞれの先生方の専門を活かした分担を組むことができ、医療栄養学科教員の学生教育への熱意とチームワークのよさを実感した次第です。懸案であった学校現場・教育委員会との連携も、残食ゼロの「おいしい給食」としてTV等で度々紹介され、レシピ本の発行などとあわせて全国的に有名な、東京都足立区のご協力を得ることができました。足立区教育委員会「おいしい給食」係、足立区立栗

島中学校の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。教員の得意分野の集約・地域連携の叶った授業に出来たのは嬉しいことでした。学生にとっては、毎回1テーマで教職課程と専門科目の関連事項を復習し深めることができ、学外での学校給食体験も好評でしたが、それ以上に教職を目指す自分の実力を見つめる機会となったようです。

次に、東が丘・立川看護学部の「教育学」をご紹介します。授業概要は、学部設置時の申請にそったものですが、一般教育科目でありながら、看護を学ぶ学生に必修とされている意味を考え、教育学の概論を講じる導入として、視聴覚教材を用いて「可逆操作の高次化における階層－段階理論」（人間発達には法則性があり、しかもそれは階層と段階からなるという理論）を解説します。赤ちゃんが、人間の特徴である直立二足歩行・道具の使用・ことばをどのように獲得し、自我を持ち、自制心を獲得し、「理（ことわり）」を知っていくのか、6歳ごろまでを丹念にたどります。人類の進化の歴史から、子ども・おとなを含めて、現代教育学の核ともいえる人間「発達」の概念をしっかりと理解することが出来れば、人間ひとりひとりの尊厳と自由、それを育む教育のシステムの問題、内容・方法の学習は、無理やりの必修ではない、学生の内発的な学びになると考えています。

本学における大学教育の意義を常に考えつつ、HumorのあるDecentな教員・研究者、大学を目指して、同僚の教職員と手を携えて、地域・社会と結びながら、学生を大切に育んでいきたいと願っています。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

医療保健学部医療栄養学科 教授 渡部 容子

平成26年度キャリア教育Ⅰ 学科別研修

今年度の新入生合宿研修は、4月30日(水)、5月1日(木)に国立オリンピック記念青少年総合センターに於いて実施されました。その中で、キャリア教育Ⅰの授業として、1日目には、医療保健学部3学科の各教員から、互いの専門性を理解するための講義が行われ、2日目には学科別研修が行われました。

学科別研修として、医療情報学科では、昨年度に引き続き、キャリアシミュレーションプログラムを実施しました。キャリアシミュレーションプログラムとは、独立行政法人労働政策研究・研修機構にて公開されているキャリアガイダンスプログラムの1つで、就業体験のない大学生等を対象として、就職後の職場で働くイメージを理解し、時間経過に伴うさまざまな出来事を見通すことで、人生やキャリアについて考えることを促すものです。具体的には、若手営業職を例に、就職後から30歳までの職業生活をすごろく形式で体験し、その体験をもとにグループワークを行って互いの考え方を知り、今後の生き方について考えを深めることができます。

授業としては、4人グループに分かれて、前半では、すごろくによる就業擬似体験を行い、この体験を踏まえたうえで、「これからの大学生活において、どのような目標を立てて過ごしていくべきか」

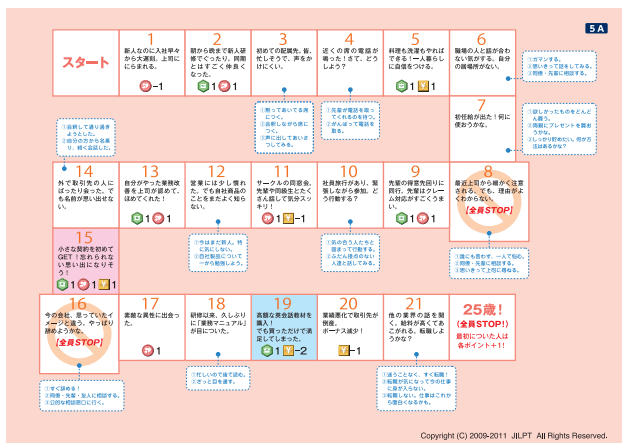
を題材としたグループワークを行いました。授業の後半では、グループワークによる話し合いの結果をグループごとに発表しました。

また、各学生にはキャリアシミュレーションプログラムの実施前と実施後に、キャリアに関する「知識(問題対処・生涯学習・仕事の取り組み方・コミュニケーション・キャリア管理)」「将来の想像」「就業への自信」の3領域、計15項目について、セルフチェックシートを記入してもらいました。これは、それぞれの領域に関する質問に対して、「そう思う」「わからない」「そう思わない」の3択で答えるもので、ポジティブな考えを持っているかどうかを見ることができます。

セルフチェックシートを集計し、3領域ごとでまとめた結果を下表に示します。この結果から、就業イメージが持てず「わからない」と回答していた割合がこの授業を通して改善され、またポジティブな考えへの転換につながっているものと思われます。

新入生には、今回の経験を参考として、職業人生に向けた考えを持ち、目標を持って、充実した大学生活を送ってほしいと思います。

医療保健学部医療情報学科 助教 おおの ひろゆき 大野 博之



就業イメージ体験のすごろく

	ポジティブな回答		わからないという回答	
領域	実施前	実施後	実施前	実施後
知識	77.4%	87.9%	18.4%	8.7%
将来の想像	45.5%	57.2%	32.3%	27.5%
就業への自信	59.0%	80.9%	36.0%	15.7%

診療情報管理士合格者の声

私は、大学入学以前から、医療分野に興味があり、将来は病院内で蓄積されるさまざまなデータを管理、分析して、病院の運営に役立つ仕事がしたいと考えていました。病院で専門職として働くために、医療に関する知識だけでなく、診療情報管理士の資格が必要だと思い、資格取得を目指して学生生活を送りました。

具体的には、資格試験を受験するために必要な科目の単位を確実に修得することはもちろんのこと、医療情報学科で実施されている資格対策講座にも積極的に参加しました。また、問題集で自分の苦手な箇所を見つけ、自分の弱点を少しずつ埋めていきました。特に医学の分野は苦手だったため、問題集で間違えたところは、教科書の解説と照らし合わせながら確認し、理解を深めることに努めました。

診療情報管理士試験の出題範囲は基礎分野と専門分野と分類法の3つがあります。医学の知識が問われる基礎分野の試験では、選択肢を2択まで絞ることができるものの、正答として自信が持てない部分もあり、もう少し勉強し、着実に点数をのばせるようすべきだったと反省しています。専門分野の試験は、対策講座を受講していたことで比較的良好に解けたと思います。分類法は、コーディングに焦ってしまいがちなので、落ち着いて問題を解こうと心がけました。その結果、診療情報管理士の資格試験に合格することができました。

今後は、取得した資格の知識と、資格取得のために取り組んだ勉強に対する姿勢を仕事の中でも活かしていきたいと考えています。

医療保健学部医療情報学科4年 たかざわ かおり 高澤 香央里

第1回学生生活実態調査の概要と結果について

東が丘・立川看護学部では、平成22年の開学当初からコンタクトグループ、学年担任制により、一人ひとりの学生にきめ細やかな学生生活支援を実施してきました。これに加え、平成25年度からは、全学生を対象とした学生生活実態調査（以下、調査）を毎年定点で実施することを教授会で決定しました。この調査により、学生の生活実態の傾向や推移を把握することができ、学生の現状に即した支援につながると考えています。

調査は無記名の質問紙によるものであり、調査内容は学生の日常生活全般に関する質問16項目、心理的な状態に関する質問9項目、学習状況や大学の学生支援体制に関する質問25項目の合計50項目で構成されています。

平成25年度第1回の調査は11月に実施し、回収率は75.1%でした。生活全般に関する調査からは、多くの学生が小遣いや生活費を得るために接客業を中心としたアルバイトを行っている実態が把握できました。中には、深夜におよぶアルバイトをしている学生も少数ながら見受けられ、生活習慣の確立や学習への影響が懸念されました。心理的な状態に関する調査からは、時に不安や緊張、気分の落ち込みといった体験をしていることがわかりました。この結果は、総合大学の女子学生を対象とした結果と大きな違いはありませんでした。

が、臨地実習等で患者様の命に関わる職業を目指していることを反映しているのではないかと推察しました。学習に関する質問からは、約半数の学生が時に授業について行けない、興味関心が持てないと感じることがあると回答し、学習に困難を抱えていることがわかりました。一方、試験期間を除く1日の学習時間は1時間未満の学生が多数みられ、さらにきめ細かい学習支援の必要性を感じました。学生支援体制についてはコンタクトグループや学年担任をはじめ、教職員の対応には概ね満足し、半数以上の学生が看護職を目指す後輩に本学を勧めたいとしていました。

今年度の調査では学生のアルバイトによる学習への影響や学習時間の確保が課題として見えてきました。看護職は生涯にわたって学習を継続し自己研鑽していくことが求められる職業であり、学生時代から主体的な学習の習慣を身につけることが必要です。ご家族の皆様にもこのような実態を踏まえ、一層のご協力をお願いしたいと考えております。そして、私たち教員は、質の高い授業を展開すると共に一人ひとりの学生が自律した看護師を目指し、充実した学生生活が送れるように関わっていきたいと考えます。

東が丘・立川看護学部看護学科 准教授 あなざわ きより 穴沢 小百合

広い視野を持った看護師を目指して

私が、東が丘看護学部へ入学した当初は、ただ看護師になるという目標のもと日々学んでいこうと考えていました。しかし、学習の過程で大学で看護師についての知識や技術を学ぶだけでは、患者さんとその家族に最善の看護を提供することが出来ないと気付きました。

具体的な例をあげると、東が丘看護学部では、臨床現場を意識したカリキュラムを組まれています。看護師以外の多職種にも視野を広げ、患者を中心としたチーム医療の大切さを学びました。チーム医療によって、各職種の強みを十二分に発揮することが出来るので、患者の早期退院や日常生活動作（ADL：Activities of daily living）、生活の質（QOL：Quality of life）の維持・向上へと繋げていくことが可能になるということを座学で学び、それを実習で実感することが出来ました。また、大学院修士課程では、診療看護師（JNP=Japanese Nurse Practitioner）を養成しています。大学院で学んでいる方々にTAとして演習の指導をしていただいたり、病院内で医師と協働しながら活躍している姿を拝見することで、今後の医療には、NPの存在が必要になると実感し、興味を抱きました。

東が丘看護学部は、東京医療センターの敷地内にあるため、実際に勤務している医師や専門看護師の方々に講義していただくことで、各職種の特長や役割を学ぶことが出来ました。私は、東が丘看護学部という恵まれた環境内で学ぶことで、広い視野を持って看護師を目指していく、貴重な経験をする事が出来ました。

現在、私は、病院の理念に「チーム医療」を掲げていることに共感し、東京医療センターに就職しました。そして、小児・成人どちらの患者さんにも対応できる看護師を目指しています。毎日が気付

きと発見の連続ですが、看護師として何が出来なのか日々模索しながら頑張っています。医療従事者になるということは、人の命を預かるという重い責任が伴います。そんな職業であるからこそ、医療従事者としての誇りと信念をもって日々、精進していく覚悟です。自分が何のために人を助けるのか、自分なりの信念を持つことで学ぶことに貪欲になることが出来ます。

これから看護師やJNPを目指している学部の後輩や大学院生のみなさん方には、何事にもぶつかっていく精神とチーム医療の大切さを、東が丘・立川看護学部でぜひ培っていただきたいと思います。

独立行政法人国立病院機構東京医療センター ふなばし りほ 船橋 里穂



後列一番右が船橋さん

修士課程 滅菌供給管理学領域の設置について



大学院医療保健学研究科では、2007年4月に修士課程を開設し、2009年4月には博士課程を開設しました。これらに加えて、このたび2014年4月から修士課程に「滅菌供給管理学」領域を設置しました。

医療現場では、手術に使用する道具（手術器械）および外来や病棟で患者さまの処置に使用する器材は消毒や滅菌を必要とするものが多く存在します。消毒や滅菌は、それが不完全であった場合には、患者さまへの感染などの重大な事態を生ずることになり、患者さまの安全を守る上でとても大切な行為となっています。

診療で使用した器材は、中央材料部にて専門家による洗浄が行われ、器材の特性に応じた滅菌法が選ばれます。器材の滅菌においては、無菌性の追求のみならず素材への影響、さらには医療スタッフに対する滅菌剤による薬害防止まで、とても専門的な作業が求められています。この様に重要な業務であるにもかかわらず、これまで、この分野について科学的に専門的な知識を有する人材が不足していました。

このような状況を打破するために、日本医療機器学会では2000年から滅菌技師の教育認定システムを構築してまいりました。滅菌技師は、現在では5,000名を超える数まで成長してきました。そのような折に、技師の更なるスキルアップを図るために大学院での専門的な研究活動が必要な時期に来ていると判断して、この度、本大学院医療保健学研究科に滅菌供給管理学領域を開設いたしました。

この分野には、医療の質の向上を求めて解決していかなくてはならない課題が山積し、研究テーマも数多く存在しています。各種新しい滅菌法の開発、器械の洗浄評価および使用履歴の管理（トレーサビリティ）、滅菌の質保証と検証技術、特殊微生物に対する滅菌法、手術機器の保守点検法（メンテナンス）、感染制御技術、スタッフ教育、スタッフの安全確保、特殊器械の組み立て使用、中央材料部のマネジメントなどの様々なテーマがあります。

本領域ではこれらの研究・教育・実践・マネジメント能力を修得することが可能です。滅菌に係る専門的知識を有し、問題解決能力に優れた人材の育成を通じて、社会の要求に一步でも近づき、東京医療保健大学から世界に発信できる新しい研究成果が発表されることを期待しております。

医療保健学研究科 医療保健学専攻 教授 おおくぼ たかし 大久保 憲

院生の声



「万病に効く薬はないが、栄養は万病に効く」。日本静脈経腸栄養学会初代理事長の小越章平先生の言葉です。

大きい手術をしても栄養状態が良い患者さんは早く元気になりますし、低栄養状態では軽度の肺炎でも長期の治療になります。臨床における栄養管理は治療を支える基盤になるということを、日々の

仕事で実感しています。

私は病院給食の仕事を3年経験した後に、病棟で患者さんの栄養管理やチーム医療に関わるようになり3年になります。病棟では患者さんに良い栄養管理をする上で、医師やメディカルスタッフとの交流が欠かせませんが、未熟な自分の知識と経験不足で、必要な「とっさの判断」が出来ず悔しい思いをすることが沢山あります。臨床の現場で様々な発生する問題に対して、患者さんに行われている

る栄養管理を知りたくて、論文を読むうちに研究に興味を持つようになり、大学院進学を決めました。

仕事と大学院の両立は体力的には大変ですが、著名な先生方の授業や課題をこなす事は、自分の糧になる実感があり、精神的にとっても充実しています。同級生もみんな社会人。自分の求めていることに対して真摯に取り組まれている熱意が良い刺激です。準備は大変ですが授業は楽しく、様々な経験を持った看護師、助産師、検査技師、栄養士という心強い仲間と一緒に、大学院生活を送れることは本当に幸せです。

学生に戻った今、改めて大学時代の恩師に教えて頂いた「為せば成る。為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉をかみしめています。2年間の勉強をさせていただける時間を大切に、日々仕事と研究や課題と眠気と、上手に付き合いながら、精進したいと思います。

医療保健学研究科 修士課程1年 医療栄養学 ますだ あやこ 増田 彩子



岩手県盛岡市から、金曜日の夜に新幹線に飛び乗り、週末は東京で勉強に励むという日々が始まり、はや3ヶ月が経ちました。

私が、本大学院に進学しようと思ったのは、ズバリ「滅菌供給管理学領域の開設」がきっかけです。感染管理認定看護師として、手術室・中央滅菌材料室を兼

任しておりますが、感染対策には、必ずと言っていいほど、滅菌・消毒に関連することが多くあります。

また個人的な感想ですが、病院内での「滅菌・消毒における専門家の存在が明確になっていないのは、どうなのか？」という素朴な疑問がありました。それが、感染管理認定看護師であるべきかどうかは分かりませんが、滅菌供給を取り巻く環境を向上させることは感染対策上の鍵ではないかと思っています。そんな疑問を持っていた折、「滅菌供給分野における最新知識の修得と総合的な研究ができる大学院が新設」という知らせは、本大学院を選ぶ十分な動機と

なりました。

このような経緯で現在にいたりますが、私は若い頃、臨床工学技士として心臓手術の体外循環（人工心肺操作）等も行っており、術後の感染が患者の予後に大きく影響することを実感しました。当時は、感染対策は現在のような水準では認知されておらず、エビデンスのない事も多く行われていたように思います。「感染対策の重要性」はどの分野でも、どの職種でも共通して実施されなければ意味がないということを身をもって経験しました。一方で、そのためには、この分野のさらなる認知が必須であり、科学的研究による裏付けが進まなければなりません。

一医療従事者として、先生方からご指導いただきながら、研究の基礎をしっかりと身につけ、この分野の一助になりたいと考えております。

最後に、ご縁あって同期となった方々、先輩の皆さんと交流を深め、これからの院生生活を大いに学び楽しみたいと思っています。

医療保健学研究科 修士課程1年 滅菌供給管理学 とだて よしひろ 外館 善裕

一般社団法人日本私立看護系大学協会会長表彰を受けて

私は今年の3月に東京医療保健大学大学院看護学専攻（高度実践助産コース）を修了し、現在は国立病院機構弘前病院で助産師として働いています。看護学研究科高度実践助産コースの一期生として、助産学に関する多くの専門的な知識や技術を学んできました。特に、助産管理や地域助産活動について深く学ぶことができたのは、日本ではまだ20数校しか行われていない助産学の大学院コースだからこそだと思います。研究の方法や進め方、書き方についても、教授をはじめ、多くの先生方からご指導いただき、修士論文として満足できる研究ができたのではないかと考えています。

大学院修了にあたり、光栄にも「一般社団法人日本私立看護系大学協会会長表彰」を頂きました。草間朋子研究科長よりその旨を聞いたときには、私自身とても驚きました。そして、先生方も自分のことのように喜び、ねぎらいの言葉をかけてくださいました。とても栄誉ある表彰をいただくことができたことを誇りに思うと同時に、推薦してくださった草間先生をはじめ、高度実践助産コースの先生方には大変感謝しております。この表彰は、大学院生活の中で、学業に励むと同時に、豊かな人間性や協調性を重んじた学生に与えられると聞きました。恐縮ですが、私がこのような表彰をいただくことができたのは、時には家族のように温かく見守っていただき、

また時には厳しくご指導いただいた先生方のお陰であると強く感じています。また、同じ学び舎で2年間切磋琢磨しあった、7人の仲間がいたからこそだと思います。先生方や仲間への感謝の気持ちを忘れず、いつどんな時でも謙虚であることを心に刻み、推薦をしていただいたこと、また表彰されたことに恥じぬよう、社会・時代のニーズに適切に対応できる助産師としての人生を歩んでいきたいと思っています。

高度実践助産コースの修了生たちは、現在、活動する地域はそれぞれですが、先生方や仲間と再会できることを心待ちにしながら、お互いにそれぞれの道を歩み、少しでも成長していけるようしっかり日々を過ごしていきたい所存です。そのためにも、まずは現場の医師や先輩助産師の後姿を見ながら、自分自身の助産師像をしっかり持ち、日々精進していきたいと思っています。先生方には、今後も温かく見守っていただき、ご指導ご鞭撻をいただけたら幸いです。

国立病院機構弘前病院 助産師 やまざき まりこ 山崎 恵理子



米国ハワイ州でのNP研修を終えて

米国ハワイ州で働くNP（Nurse Practitioner：診療看護師）の活動を視察することを目的に3月17日から5泊7日でハワイに行ってきました。この研修には、北は北海道から南は大方までの全国各地から、大学院修士課程のNPコースを修了し現在国内で働いているJNP（診療看護師）やNPコースの大学院生、そして、NP教育に関わっておられる先生方、合計21名が参加しました。「NPに明るい未来を」という、同じ目標に向かって前進している21名は、会って直ぐに打ち解け合い、研修初日から、1週間の研修に向けての期待で胸がいっぱいになりました。

研修では、病院で働くNPだけでなく、医師やNPを目指す学生にも話を伺う機会が得られ、幅広い情報を得ることができました。各施設では、フラダンスの踊りや可愛いお菓子袋などもご用意頂き、非常に素敵な「おもてなし」を受けました。

研修で得た学びを大きく分けると、以下の三つにまとめられます。

- ①「NPに求められるCure（治療）」の範囲が広く、そのレベルが非常に高いことです。ハワイ州のNPの業務内容は「検査のオーダー、施行、結果判定」「患者の診察・診断」「医薬処方」「病状管理」「カウンセリング」などに及び、死亡診断書の記載ができないこと以外はプライマリケアについては、ほぼできるようになっております。多くの患者が、NPによるCureを受けていました。常に最新の医学に関する知識を、医師とのコミュニケーションや文献、学会などから収集しており、NPになってからも学び続け、患者に最高のCureを提供している姿に魅力を感じました。
- ②NPは医師や患者から非常に高い評価を受けていることです。研修先の病院の医師に、「NPとはどんな存在か」と質問すると、「We Love NP」と答えられました。その意味は、「患者を丁寧に診療するためには、NPの存在は欠かせない。NPとは、患者や家族と信頼関係を築き、病気だけでなく人を診る能力に長けている。そして、NPは謙虚さと誠実さを持った人が多い。」

というものでした。また、「私の主治医はNPだ」と言う患者もあり、NPに対する信頼が非常に高いことを実感しました。

- ③NPに関わる人々との連携の重要性です。研修に参加された国内の大学院の先生方からは、政治の力の重要性や自律することの大切さ、日本国内でNPの先駆者として活動してるNPの先輩方からは、臨床で得られる知識や、多職種間でのNPの立ち位置、他大学の大学院生からは、各大学のカリキュラムの特徴や学習方法、目標について意見交換しました。このことを通して、自分が進むべき方向や目標を改めて考え直す、非常に良い機会となりました。

多様化する医療ニーズに応えるためには、様々な職種が連携して問題解決に取り組む必要があります。今回視察した米国ハワイ州のNPを取り巻く環境は、各職種が専門性を発揮し、かつ仕事を細分化しており、効率よく患者に必要な医療サービスが行き届くように工夫されていました。また、それぞれの専門職が、他職種の役割を認め、職種間の力関係は等しいことが分かりました。多職種の声が尊重されるということは、患者の声が医療チームに、より確実に伝わるということにもつながっています。これらのことから、私は自分の専門性や役割を再認識し、常に多職種の意見を聞き、謙虚な姿勢を忘れず、患者や家族に向き合っていきたいと思いました。

東京医療保健大学大学院 看護学研究科 高度実践看護コース2年 おおし まり かむと かずよ 大橋 真理、川本 寿代



平成26年度 入学者選抜状況

平成26年度の入学者選抜は、大学入試センター試験利用入試（後期日程）の選抜をもってすべての日程が終了しました。
入学試験の概要は次のとおりです（入試広報部）。

【入学試験実施概要（平成25年8月～平成26年3月）】

●医療保健学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
8月AO入試（医療情報学科）	8月14日（水）	5	20	20	20	20
9月AO入試（A）（医療情報学科）	9月15日（日）	8	7	7	6	6
9月AO入試（B）（医療栄養学科）	9月15日（日）	10	39	39	11	11
9月AO入試（B）（看護学科）	9月15日（日）	8	106	104	8	8
10月AO入試（医療情報学科）	10月13日（日）	10	16	16	16	16
12月AO入試（医療情報学科）	12月15日（日）	5	7	7	5	5
3月AO入試（医療情報学科）	3月5日（水）	2	3	3	3	3
計		48	198	196	69	69
附属・協力校推薦入試	11月17日（日）	32	5	5	5	5
指定校推薦入試	11月17日（日）		34	34	34	34
公募制推薦入試	11月17日（日）	25	60	59	24	24
センター利用入試（前期）	1月18日（土）・19日（日）	40	867	867	274	39
一般入試（前期）	2月4日（火）	95	923	849	241	99
一般入試（後期）	2月18日（火）	31	362	325	74	43
センター利用入試（後期）	1月18日（土）・19日（日）	9	41	41	9	4
合 計		280	2490	2376	730	317

●東が丘・立川看護学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
附属・協力校推薦入試	11月17日（日）	15	4	4	2	2
指定校推薦入試	11月17日（日）		10	10	8	8
公募制推薦入試	11月17日（日）	10	61	60	21	21
第2期指定校推薦入試	12月8日（日）	15	17	17	15	15
第2期公募制推薦入試	12月8日（日）	10	19	18	14	14
センター利用入試（前期）	1月18日（土）・19日（日）	15	336	336	91	11
一般入試（前期）	2月4日（火）	100	408	374	142	57
一般入試（後期）	2月18日（火）	30	178	171	23	2
センター利用入試（後期）	1月18日（土）・19日（日）	5	23	23	5	1
合 計		200	1542	1473	478	231

●助産学専攻科

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦入試	9月14日（土）	15	25	25	10	10
社会人推薦入試	9月14日（土）		1	1	0	0
一般入試	10月13日（日）		33	32	14	11
合 計		15	59	58	24	21

オープンキャンパス・入試説明会 2014年度のオープンキャンパス及び入試説明会を下記の通り行います。

- ≫オープンキャンパス
（入場無料・予約不要）

●世田谷キャンパス …… 7月19日（土）
 ●国立病院機構キャンパス …… 8月2日（土）
- ≫進学ガイダンス

●五反田キャンパス …… 8月16日（土）・17日（日）
- ≫入試説明会

●6月21日（土）
- ≫医療情報学科 見学会

●世田谷キャンパス …… 10月4日（土）
 ●五反田キャンパス …… 11月23日（日）
- ≫医療栄養学科 学科体験 見学会

●世田谷キャンパス …… 8月5日（火）～7日（木）／8月20日（水）～22日（金）
- ≫東が丘・立川看護学部 見学会

●世田谷キャンパス …… 8月23日（土）
 ●国立病院機構キャンパス …… 8月22日（金）
 ●国立病院機構災害医療センター …… 8月24日（日）
- ≫新高校3・2年生対象進学ガイダンス

●五反田キャンパス …… 平成27年3月21日（土）

平成25年度 4年次生学科別進路状況

1. 就職状況

- 文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、94.4%（昨年同期比0.5ポイント増）でした。
- 本学の就職率は医療保健学部、東が丘・立川看護学部を合わせ99.2%となっております。

2. 各学科の状況（平成25年度卒業生） ※各学科の数字は過年度生を含まず。

(1) 医療保健学部 医療情報学科 就職率98.4%

(人)

(次)

就 職 者	就職決定者		61
	未 決 定 者		1
進 学 者	大 学 院 進 学 者	本 学	0
		他大学	4
	専 門 学 校	ネイルアート	1
そ の 他			6
卒業延期者			5
合 計			78

※大学院進学者 ・ 北里大学大学院医療系研究科
 ・ 日本大学大学院理工学研究科（2人）
 ・ 東京電機大学大学院未来科学研究科

(2) 医療保健学部 医療栄養学科 就職率98.9%

(人)

就 職 者	就職決定者		90
	未 決 定 者		1
進 学 者	大 学 院 進 学 者	本 学	0
		他大学	1
	専 門 学 校		1
そ の 他			1
卒業延期者			3
合 計			97

※大学院進学者 ・ 筑波大学人間科学総合研究科

(3) 医療保健学部 看護学科 就職率100%

(人)

就 職 者	就職決定者	病 院	103
		保 健 師	1
		民間企業	0
	未 決 定 者		0
進 学 者	大 学 院 進 学 者	本 学	0
		他大学	0
	専 門 学 校	本 学 (助産学専攻科)	6
		他大学 (別科)	2
そ の 他			2
卒業延期者			4
合 計			118

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科 就職率100%

(人)

就 職 者	就職決定者	病 院	85
		保 健 師	3
		民間企業	1
	未 決 定 者		0
進 学 者	大 学 院 進 学 者	本 学	3
		他大学	2
	専 門 学 校	本 学	0
		他大学	0
そ の 他			4
卒業延期者			0
合 計			98

※大学院進学者 ・ 東京医療保健大学大学院看護学研究科（3人）
 ・ 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科
 ・ 千葉大学大学院教育学研究科

(5) 助産学専攻科 就職率95%

(人)

就 職 者	就職決定者	19
	未決定者	1
合 計		20

平成25年度各種国家試験受験結果一覧

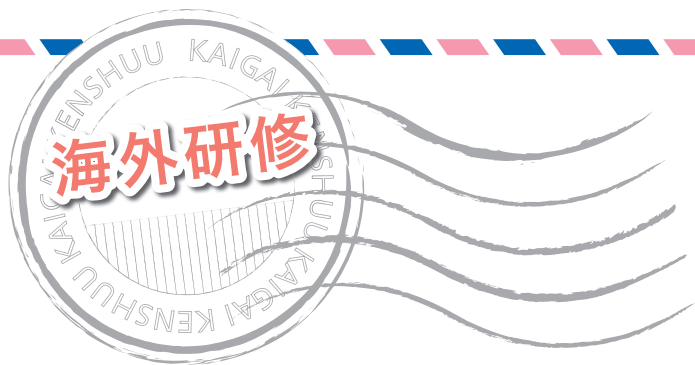
医療保健学部及び助産学専攻科

	看護師	保健師	助産師	管理栄養士
本学受験者数	(118)	(118)	(21)	(87)
	127	123	21	87
本学合格者数	(116)	(96)	(21)	(81)
	123	100	21	81
合 格 率	(98.3%)	(81.4%)	(100.0%)	(93.1%)
	96.9%	81.3%	100.0%	93.1%
全平均合格率 (新卒)	95.1%	88.8%	97.6%	91.2%
全平均合格率 (全体)	89.6%	86.5%	96.9%	48.9%

注) () は新卒者で内数である。

東が丘・立川看護学部及び大学院看護学研究科高度実践助産コース

	看護師	保健師	助産師
本学受験者数	98	90	5
本学合格者数	94	71	5
合 格 率	95.9%	78.9%	100.0%
全平均合格率 (新卒)	95.1%	88.8%	97.6%
全平均合格率 (全体)	89.6%	86.5%	96.9%



ハワイ大学正門前で記念撮影

国際交流委員会では、全学合同海外（ハワイ大学）研修を、平成26年3月9日（日）～17日（月）（7泊9日）の日程で実施いたしました。今回の参加者は、医療保健学部看護学科3名、同医療栄養学科10名、同医療情報学科10名、東が丘・立川看護学部看護学科10名で、合計33名の学生が参加しました。また、引率者は各学部学科の教員等7名でした。

今年は現地の研修受け入れ先が、例年までのハワイ大学医学部シミュレーション研究センターから、同大学看護・歯科衛生学部看護学科実践対応シミュレーションセンター（THSSC）に変更されました。それに伴い、研修内容も一部見直しが行われ、研修期間も例年より1日長くなり、量的にも質的にもさらに充実した研修内容を実現できました。また、宿泊に関しても今回初めて、大学のキャンパスに位置する訪問者用学寮を利用いたしました。

学内では、現地研修に先だって、10月～3月の間、現地での研修の準備として、土曜日の午後、ほぼ毎月1回のペースで、事前学習会を開催しました。事前学習会は、講義およびグループワーク形式で行われました。全体学習会のほか、学科別の学習会もそれぞれ適宜実施されました。

現地研修における全学科共通のプログラムは、以下の通りでした。

講義：日本と比較したアメリカの医療体制および提供の仕方、ハワイ原住民の歴史と健康、ハワイ大学（UH）における看護教育、医療におけるモバイル機器を活用した学習、概念地図の作成とその意義、模擬患者を使ったシミュレーション、メガコード状態に対する緊急チーム対応、地域保健、栄養とがん

演習：救急救命演習（AED、CPR、バグバルブマスクの実施訓練）、バーチャル演習（点滴ルートの確保の練習等）、電子カルテ・バーコードスキャンによる薬剤管理・自動化薬剤管理棚など医療とITに関する学習、TBL（チーム学習）、TBLを活用したシミュレーション演習（糖尿病の患者の場合）

見学：ハワイ大学THSSC見学、KKV（コクア・カヒリバリー）地域（移民や低所得者の居住地域）の生活と保健を学ぶフィールド学習、ハワイ大学キャンパスツアー

研修最終日は、領域ごとに分かれて研修を行いました。医療保健及び、東が丘・立川の両学部の看護学科は、シャミナーデ大学看護学科を訪問しました。アメリカの看護に関する講義を聞き、同大学看護学生によるシミュレーション演習の見学、シミュレーション室の見学を行い、学生とのランチ交流会がもたれました。医療栄養学科と医療情報学科は、クアキニ医療センターを訪問し、それぞれ栄養部門と医療情報部門に分かれて研修を行いました。

領域別学習の後、全員がまたハワイ大学THSSCに戻り、講義を受け、修了式となりました。修了式では、John Casken教授、Lorrie Wong THSSCディレクター、Gary Glauberman講師から、学生1人ひとりに修了証書が手渡されました。式終了後には、手作りのカップケーキで学生たちの研修修了を祝っていただきました。

今年は、予定していたシュライナズ小児病院の見学が、同病院内でのインフルエンザの流行によって、急きょ中止となりました。大変残念でしたが、不可抗力の事態でした。ただ、ハワイ大学の教員の迅速な対応で、すぐに代替プランを練られ、予定にはなかった講義などで研修をうまくまとめていただきました。

今回は、座学と演習や訪問など行動的な学習との組み合わせのバランスが大変よく、内容的にとっても充実したものとなりました。学科による多少のばらつきはあったものの、参加者全員が高い満足度を示しています。今後は、学科による内容のばらつきを修正することが課題として挙げられていますが、この点については、ハワイ大学とすでに調整を始めています。また、大学などでの研修以外でも、ハワイでの異文化体験を通じて多くの学びがあったことが、現在、寄せられている学生の研修エッセイの中から読み取られます。6月23日（月）には、五反田キャンパスで学生による海外研修報告会が開催されました。約90名が参加し、学生の報告に熱心に聞き入っていました。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子



緊急時のチーム間コミュニケーションの授業



THSSCでの救急救命演習。学生の表情は真剣そのもの



KKVでの地域保健研修風景



KKVフィールドに出る前の事前講義



学生のために用意された手作りケーキ

トピックス Topics

田村理事長が旭日中綬章を受章されました。

平成26年春の叙勲において、田村哲夫理事長が私学振興功勞により旭日中綬章を受章されました。永年のご功績によりご受章されましたことは誠に喜ばしく心よりご祝意を申し上げますとともに今後の一層のご活躍・ご健勝をご祈念いたします。

新入生合宿研修を実施しました。

4月30日(水)及び5月1日(木)の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、新入生合宿研修を実施しました。参加者(宿泊者)は新入生538名、教職員19名、上級生15名、計572名で、東が丘・立川看護学部看護学科の定員増で昨年度より約150名多い合宿研修となりました。

健康で安全な大学生活を送るために必要な知識や態度に関する全体講義として、木村学長の講話を始め、マナー講座、薬物に関する講話、カルト宗教に関する講話、性感染症に関する講話がありました。学部別研修では、医療保健学部はキャリア教育を、東が丘・立川看護学部は「4年後の自分」というテーマで、将来展望に基づいた学生生活の送り方について研修を行いました。4月30日(水)の夜は、学友会の企画によるリレーションとして、大縄跳び、リレーを行い、新入生はゲームを通じて学部学科を超えて親交を深めました。

「卒業生のページ」を開設しました。

本学ホームページに「卒業生のページ」を開設し「住所変更」「改姓」の届出がホームページより可能となりました。卒業生向け最新情報の発信をはじめ、卒業生と大学のコミュニケーションツールとして活用します。

「卒業生相談窓口」を開設しました。

卒業生支援方策の一環として、仕事をする上で悩みを抱え、転職や再就職を考えている卒業生の相談窓口を4月から学生支援センター内に開設しました。「卒業生相談窓口」については、ホームページにおいて周知を図っておりメールにて相談申込みを受け付けることとしております。

編集 後記 Editor's note

本学は平成17年度に開学しており、今年度は開学10年目を迎えております。東が丘・立川看護学部看護学科においては今年度入学生から新たに2コース制(臨床看護学コース、災害看護学コース)とするとともに入学定員を100名から200名に改訂したこと、また、新たに、大学院医療保健学研究科修士課程においては滅菌供給管理学領域を設置したこと、大学院看護学研究科においては博士課程看護学専攻を設置し、同研究科修士課程においては看護科学コースを設置しており教育研究組織の発展充実を図っております。

本学は、建学の精神及び教育理念に基づき「学習者」中心の教

女子バスケットボール部大会成績

関東大学女子バスケットボール連盟82チームの参加による第48回関東大学女子バスケットボール選手権大会が5月3日(土)から5月18日(日)まで開催され、本学女子バスケットボール部は4位の成績を収めました。

また、第4回関東大学女子バスケットボール新人戦が6月1日(日)から6月22日(日)まで開催され、本学は3位決定戦で拓殖大に勝利し3位となりました。女子バスケットボール部は昨年の秋には念願の1部昇格を果たしており、今年の秋の1部リーグ戦での活躍が大いに期待されます。

「看護の日」イベントに参加しました。

5月10日(土)に原宿の公益社団法人日本看護協会において、「看護の日」のイベントとして、第4回「忘れられない看護エピソード」表彰式が行われました。このイベントに本学医療保健学部看護学科2～4年次生の計10名がボランティアとして参加しました。学生たちは、表参道を歩く人々に看護の日グッズを配布したり、「看護の日」の呼びかけを行いました。

「古代食復元研究会」の立ち上げについて。

今年2月、医療栄養学科の教員有志若干名が、古代の食事の復元研究と、それに影響される疾病の解明をテーマに「古代食復元研究会」を立ち上げ、現在基礎勉強会を月1回ほど行っています。また独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所とも提携し、意見交換を行っており、今後は学外者も交えながら共同研究を目指し、研究会を発展させていく予定です。

診療情報管理士の合格者について。

医療情報学科が取得を進める資格の1つである診療情報管理士(一般社団法人日本病院会認定)の2013年度の合格者は9名でした。今後も資格取得に向けて適切に修学支援を行ってまいります。

国立病院機構関東信越グループ看護学生フォーラム及び就職説明会への参加について。

4月25日(金)に幕張メッセで開催された、第8回国立病院機構関東信越グループ看護学生フォーラム及び就職説明会(関東甲信越地区33病院、北海道東北地区3病院及び九州地区1病院が参加)に東が丘・立川看護学部3年次生74名が参加しました。

育を実現するため、平成24年度をスタートとする5年間の中期目標・計画を策定・実施しておりますが、中期目標・計画に基づき、時代が求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に解決することができる優れたチーム医療人の育成を図るとともに、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができるよう、引き続き学生に対する修学支援・生活支援・進路支援を適切に行ってまいります。